

第3回北九州市食育推進懇話会 議事録

1. 開催日時

令和5年8月18日(金)

2. 開催場所

北九州市役所 3階 大集会室

3. 出席者

(1) 構成員

穴井構成員、◎天本構成員、河野構成員、木村構成員、黒田構成員、田中構成員、中尾構成員、○長尾構成員、永津構成員、西村構成員、馬場構成員、原田構成員、藤崎構成員、安木構成員、山下構成員

(50音順・敬称略、◎:座長、○:副座長)

(2) 行政

(事務局)保健福祉局、子ども家庭局、産業経済局、教育委員会

4. 次第

(1) 開会

(2) 議題

① 確認事項

第2回北九州市食育推進懇話会議事要旨

② 次期北九州市食育推進計画基本方針Ⅰ・Ⅱの具体的事業について

③ 次期北九州市食育推進計画スローガン(案)について

④ 意見交換

(3) 閉会

5. 議事

開会

事務局 本日はお忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、第3回北九州市食育推進懇話会を開催いたします。

本日の懇話会には、座席表通り、構成員17名中15名の方にご出席をいただいております。

なお、本会議のPTA協議会構成員におかれましては、木下構成員より、穴井構成員に変更がっております。穴井構成員、一言ご挨拶をいただいてもよろしいでしょうか。

穴井構成員 こんにちは。本年度から北九州市PTA協議会で常務理事を拝命しております穴井と申します。初めましてで、よくわからないところもありますけれど、しっかり関わっていきたく思いますので、よろしく願いいたします。

議題① 確認事項 第2回北九州市食育推進懇話会議事要旨

・第2回懇話会後の構成員からのご意見

事務局（資料を用いて説明）

座長ありがとうございました。

ただいま議題1の確認事項として、第2回北九州市食育推進懇話会議事要旨と懇話会後に皆様からいただきましたご意見とその回答について説明をしていただきましたが、ご質問等ございませんでしょうか。

議事要旨についてですが、ホームページに議事録そのものがアップされておりますので、詳細に関しましてはそちらの方でご確認いただければと思います。

これに関しまして、質問等ございませんでしょうか。

永津構成員懇話会後からの意見の中で、オーガニックのものは国産に限らず、外国産もたくさんあるので、国産のものというのを削除してはどうか、という意見がありましたが、やはり、地産地消、国産を進めていきたいと思っておりますので、JAとしては「国産のもの」の記載は残したいと思っております。

座長こちらについては、環境に配慮した食生活を実践するという項目で、地産地消もそうですけれども、国産のものを購入することについては、輸送等に関わるエネルギー（フードマイレージ）等も考慮していることとなりますので、引き続きこちらの方は残していきたいと考えております。

他にございませんでしょうか。

懇話会後に木下構成員、黒田構成員からいただいたご意見に関しまして、詳細は後ほど事務局の方から、個別に回答されるということですので、次に進めて参ります。

次期食育推進計画と健康づくり推進プランの策定を同時に進めておりますので、その課題としてどうしても重複している部分がございます。その点は食育と分けて考えるのではなくて一緒に進めていくということで、ご理解いただければと思っています。

それから、永津構成員がおっしゃっていたように国産について、国の第4次食育推進基本計画の中に、「環境に配慮した食生活を実践する」という項目がございます。国としては食料自給率の向上を図りたいというのがありますし、国産品、生産者が見える食品を選択して欲しいということも挙げていますので、ここについては北九州市のもの、そして県のもの、九州のものというふうに国のものをいただいていきたいと思っておりますので、市の計画にも残していく方向で思っております。

前回、第2回の懇話会では、次期計画の体系案と計画の指標案について検討いたしました。

指標に関しましては、本日の懇話会での事業等の説明をして、確認をしていただき、皆様のご意見を参考にさせていただいた上で本日以降、事務局の方で決定をさせていただこうと思っております。

よろしいでしょうか。特にご質問等なければ次の議題に進めたいと思っております。大丈夫でしょうか。

それでは、議題2の次期北九州市食育推進計画基本方針、具体的事業について、事務局の方から説明をお願いいたします。

議題② 次期北九州市食育推進計画 基本方針Ⅰ・Ⅱの具体的事業について

事務局（資料を用いて説明）

座長ありがとうございました。

ただいま、次期北九州市食育推進計画の基本方針Ⅰ・Ⅱの具体的事業について事務局より説明がございましたが、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。

具体的な事業を進行していくにあたり、意見やアドバイス等いただけたらと思っております。まず【資料2】の一番右に事務事業の案が載っております。【資料2-2】の方にそれぞれの事業案の概要が載っております。どこの課が担当されているか、担当課が掲載されておりますので、ご覧になってください。

まず、お手元に【参考1】次期北九州市食育推進計画(案)を出していただいて、柱Ⅰ「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」、二つ目の柱が「持続可能な食を支える食育の推進」。柱Ⅲは2つの柱をまとめて、デジタル化も含めて、食育の推進をしていこうという横断的視点ですので、本日は柱Ⅰ、Ⅱに関して話をしていきます。

まず一つ目の大きな柱Ⅰの「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」ということで、「ライフステージに応じた多様な場での食育」と、「健康寿命の延伸に繋がる食育の推進」。

健康寿命の延伸に関しては、健康づくりプランと特に深く関連する項目だと思いますけども、その具体的施策、そしてプランを確認いただきまして、ご意見いただきたいと思っております。今日特にご検討いただきたいのが、【資料2-4-1】や【資料2-4-2】です。次期食育推進計画の中で、ライフステージ全体がターゲットですが、重点ターゲットとしていますが、若い世代と、働き盛りの世代でございます。この世代の方は、思春期を含めてですが、自立しておられます。そして、社会に積極的に参画できる世代でもあります。そして、次世代を育む世代でもあります。そんな世代なのですが、食への関心というのはどちらかと言えば、乏しい世代でもあります。

この世代の心をいかに取り込むかというのが、今回の次期の食育推進計画の中に盛り込んで参ります重点項目ですので、【資料2】の具体的施策の3番目の「若い世代に関わる食育」と、次の「働く世代に関わる食育」のところで、一番強化して参りたい高校生の食育推進だとか、プラス野菜一皿運動の強化だとか、そこも含めて、【資料2-4-1】にありましたように、こういったデジタル機器、アプリを使って、取り組んでもらいたい。その実施方法として、仕掛けづくりなどの意見をいただけたらありがたいです。

長尾構成員食生活改善推進協議会です。今の重点ターゲット層の若い世代と働き盛り世代というところで、ちょうどコロナの始まる前までできていた事業について少しお話をさせていただきます。

私は八幡東区食生活改善推進員協議会の会長をしておりますが、八幡東区の活動の中で、若い世代というところでは、高校生をターゲットに食育事業をしたことがございます。

基本的には「バランスのとれた食事」ということと、「おやつのととり方」。やはり高校生になると、「食べ物を選ぶ」というところもとても大事になってきますので、バランスのとれた食事を一緒に調理をし、また講話をするということをいたしました。高校は私が実施した範囲では、八幡中央高校と八幡高校が2回と、九州国際大学附属高校でさせていただきました。いずれも学校の栄養担当の先生と一緒に連携を取りながら進めさせていただきました。

それから働き盛り世代というのは、今もお話があったようにお忙しい方が多くて、本当に食に関してかまっていられないという感じの方たちが多いなという印象でした。そこで、八幡東区では、八幡東消防署の方に講座をさせていただいたことがあります。それから、区役所の職員の若手の方にも集まっていたことがございます。その中で、例えばBMIで適正体重とか、また腹囲を測ってもらったりとか、あと「減塩君」と言って、塩分濃度を測定する体温計のような形をした計測計があるのですが、それを使いながら、減塩の味をしっかりと覚えていただくようにお話をしたり、また、夕方の時間ですけれども、調理実習をして、そして講話を聞いていただくというようなことを、毎年、いろいろなところにアプローチしながら進めてきております。対象者を考えると多い人

数ではありませんので、本当に微々たる場所かもしれないのですけれども、その積み重ねが、少しずつでも、広がっていくようにという思いで進めてきております。今回はターゲットが若い世代、働き盛りということで、今年ももう予定が大体組まれて、計画をしているところでございます。

座長長尾構成員ありがとうございました。もちろん全ライフステージが対象ですが、今回若い世代と働く世代、重点的に進めてくださるといことで、どうかよろしく願います。ちょっと質問ですが、先ほど高校の方に、バランスのとれた食事のとり方について食育を実施されたということで、栄養担当教員と連携して、と話しておっしゃっていたのですけれども、どのようにアプローチをされましたか。

長尾構成員最初は教頭先生や校長先生にお願いしました。

座長ありがとうございます。

やはり小中学校は栄養教諭の先生たちが居てくださるので、食育が進めやすいのですけれども、どうしても思春期という栄養必要量が一番高い時期に、栄養のことを指導してくださる教員等が高校には殆どおられないので、どうやったら食事のことに介入できるのかが一つの課題となっております。まず市立高校から、ターゲットとして進めていきたいなと思っております。

原田構成員市内の高校では、4つぐらいの高校が調理科を持っているはずですが、そこは3年間かけて調理と一緒に教えているので、そこでもできないかなと。

座長ありがとうございました。

大学との連携というのも大事と言われておりますけれども、西南女学院大学をはじめ、北九州市には3つの栄養学科を持つ大学がございますので、そことの連携と、まずは北九州市立大学から始めていきたい。やはり北九州市立大学の方で取り組んでいただいて、それを広げていくというのが一番いいのかなと思っておりますが、馬場構成員、ぜひデジタル化も含めて、前にも少し伺ったのですが、このプランでの仕掛けづくりとか、何かアドバイスがあれば教えていただきたい。

馬場構成員【資料2-4-2】の「食と健康ステーション」についてですが、このターゲットが若い世代、働き盛り世代ということですが、面倒くさいとか忙しくて時間がないから、健康的な食生活ができないという世代が、二次元コードを自分から読み込んで体験しようとするのは、あまり期待できないかなと思うので、例えばそのステッカー自体にクイズを入れて、それプラス二次元コードを合わせてみては。クイズに答えるぐらいはできると思うので、クイズが終わった後に二次元コードを読み込んで、動画で解説するというような感じの仕組みを作るだとか、あと【資料2-4-1】では、きたきゅう健康づくり応援店のお店を、「GO!GO!あるくっちゃ KitaQ アプリ」に掲載して紹介といわれていたのですが、「食と健康ステーション」の方は、独立しているような印象を受けたので、クイズに答えた上で、ポイントみたいなものをつけて、それが貯まったら、そういうお店(健康づくり応援店)でサービスが受けられる、みたいな感じの仕組みにしたら、店に人も呼べるし、市としても、若い世代の食育を推進できるなと思いました。

座長確かに馬場構成員がおっしゃるように、二次元コードを、例えば大学にポスターとかで貼っていても心に届かないといえますか、「これに取り組んだら、健康になれるよ」というふうに関心が向かないであろうということは言われています。

若い世代の高校生とか大学生だとか、20代の若い世代の人たちというのは、どちらかというところを健康づくりのためではなくて、美容とか、体作りのためと捉えていくので、そちらの方からアタックしていくのも、一つの方法なのかなというのがあります。「カッコいい身体」「美しい姿」、そういった美容の点から、食がいかにか大事かということを取り込めていけたらと思います。30代以降になりますと、やっと健康づくりと食等を結びつけていきますが。

20代、それから高校生に関しては、健康を考えないですね。今食塩をいっぱい摂っているから、いずれ自分は高血圧になるかもしれないとか、あまり考えないと思いますので、やはり大学生から、若い子たちがどうやったらそこに目を向けてくれるか、食べ物に目を向けてくれるかということも、いろいろ意見をもらって考えていかなければいけないかなとは思っています。

あと、北九州の健康づくり応援店も、SNS上にアップされているような、ちょっと「お洒落な」とか、「かわいい」だとか、そういったところをいっぱい増やしてもらって、そこが栄養のキャンペーンとかも実施しているということで、若い世代の心を取り込むことも大事だと思いますし、もちろん今、健康づくり応援店には若者の心を取り込むようなお店もいっぱいあるのだと思うのですが、そこがまだまだ広がって維持できていないので、もっと目を向けて頂きたいと思っております。

働き盛りも、食べないとやっていけないので、いかにおいしいものを短時間で食べて働けるかということが一番ですので、そこに栄養を取り込む、減塩を取り込むということをしていただければと思っています。他にご意見ございませんか。

山下構成員今大学生の方からお話もありましたけど、以前、市内の大学生協の職員さんとお話をさせていただいた時に、その当時の大学生は、食にお金を使うよりも、携帯や他のものにお金を使うという傾向が高くて、あまり食に関心がないということで始められたのが、「ミールカード」。

今もあるのかどうかわかりませんが、ミールカードは学食で食べたものを、毎月幾らと決まっていたら、その分だけ食べるということで、食べたものが親元にもちゃんと送り届けられて自分の息子や娘が学食でどんなものを食べたかというのがわかる、というのがあるということも聞いたことあるし、テレビで言っていたのが、朝の朝食応援というのがあって、やはり低価格で大学の食堂などで、早く来た方は大学で、200円程度でご飯と味噌汁と一品おかずとかそういったものが食べられるというのがあったりしていたので、そういうのがあると大学生も学食に行きたくて食べることができるとかなと思います。私は、もう絶対できないのですけれど、今の若い子は皆さん携帯持って、ゲームをかなりするので、そういった「ゲーム感覚のアプリ」があって、今日食べたものを入れたときに、「このまま続くと、あなた高血圧よ」とか「今日はまだ何も食べてないよ」などとアプリでチェックするようなものがあると、何となく食べるということが大切なのだとか、このままいくと将来的にはこういう傾向になるよとかが見えると面白いかなと思いました。

座長ありがとうございました。

デジタル化ということで、アプリを取り込んでゲーム感覚で楽しんでもらえると、食育に関しても少し興味を持ってもらえるかもしれません。

大学生協に関しては、生協が入っている大学にはミールカードは今もあります。そして保護者のもとに、どのくらいの栄養をとったというデータも届くようにはなっています。ただ、コロナ禍になりまして、学食があまり対応できなくなりまして、その間、おそらく多くの大学が、前は夕食まで出していたのを、今は出さないというような状態になっているのかなと思います。朝食を取り入れている本市の大学は多分ないので、そこはやはり、朝食も含めて学食の方で提供してもらえたらいいかなと思います。関西の方では、朝食も100円か200円ぐらいで実施されているところもあると聞いています。そういった大学は朝食の重要性をうたっておられまして、体育学部とかあったら、やは

リアスリートの学生たちは、朝食を食べないとやっていけませんので、重視しているところもありますが、今のところ北九州市内の大学で、朝食を提供している大学があるということは聞いておりません。大学に限らず、企業等でも、朝食を提供して、「朝食は大事」というのを広めていただければいいと思いますけれど、なかなか企業介入は難しいので、まず、市に関わるところから進めていければとは思っております。

あと他にございますか。

柱Ⅰの下のライフステージだけではなくて健康寿命の延伸の方もご意見ございましたら。ここには高齢期も入っています。それから、歯科保健、噛むことの重要性とか小さい頃から、味覚の形成、そこも含めています。

2枚目の柱Ⅱの方も、一緒に含めて話を進めて参りたいと思います。

Ⅱの方の「持続可能な食を支える食育の推進」に関しましても、こちらの方は主に社会環境文化の視点からですので、環境調和の推進、食の安全・安心、そして社会全体で食育を推進する体制の整備ということになって参ります。

ここに、食への感謝も含めて、農林水産体験だとか食品ロスだとか郷土料理だとか、そういった事業も、含めております。

【資料2-5】の食への理解と感謝の意識の醸成に関する体験型取り組みに関しましても、前回黒田構成員が、食への感謝を具体的にどのように教えていくのかということをおっしゃっていたのですが、コロナが5類に引き下げになりましたので、どんどん進めていくようにします。

市では、ここに書いてあること以外にも、前回申し上げましたように、保育所、幼稚園、小さい頃から食を選択する力を、その基礎を培う食育というのはしっかり実施しておりますし、小学校中学校におきましては教育委員会の方で、学校給食を通して、食に感謝する、食を選択する力という食育を身に付けておりますので、それプラスアルファで、市としましていろいろな事業を推進しております。

健康づくりプランの方は、やはり身体、健康づくり中心に策定しますが、食育推進計画は、国の食育推進基本計画を農水省が挙げておりますので、農業体験だとか、地産地消だとか食品ロスだとか、その辺も重点項目として挙げていかないといけません。

そこに関しまして構成員の方々からご意見いただければありがたいのですけれど。

安木構成員【資料2-4-2】に「サプリメントは必要？」と書いてあるのですが、とらない方がいいというのが市の考えなのでしょうか。私は補うということで考えます。必要なものは補ってほしいのですが、これはどちらの答えに行くのでしょうか。

事務局健康推進課長食育・栄養改善を担当しております磯田といいます。

【資料2-4-2】の「食と健康づくりステーション」の学習テーマ案については、あくまで案というところで記載をさせていただいております。

健康推進課としてもサプリメントが悪いものであるというふうには思っておりませんので、必要な場合には医師、それから関係の専門職の指導のもと、適切にとっていくというのは大切かと思っておりますので、そのところがわかるような形で記載していこうかなというふうに思っております。

座長ありがとうございました。

安木構成員がおっしゃるように、サプリメントで補われるものは補ってもらいたいということの点も含めて、特に若い世代で、例えば女性では鉄欠乏性貧血とかも多いですので、どうしても食品だけの摂取というのは難しかったりもするので、サプリメントを活用してもいいのだよ、というよ

うなことも含めて教えてもらう、具体的にアドバイスを薬剤師の方にいただけるとありがたいかなと思っております。

それで、河野構成員は健康づくりプランの方にも構成員として入ってくださっていると聞いておりますので、もしもよろしければ、健康づくりプランの方で重点的に挙げているものについて、食育の方でもしっかりと事業でやっていって欲しいということがありましたら、伝えていただければと思うのですが。

河野構成員今回、重点ターゲット層が若い世代と働き盛り世代ということで、関心も時間もない、日々の生活が必死でというところで、食事が自分の手作りでとることが少ない。でも、食事を、買って来たものや保存ができる食べ物と自分が作ったものとを合わせてとるようにすすめていければよいと思います。高血圧にしても糖尿病にしても肥満にしても食べすぎと塩分の多さとカリウムの摂取状況について説明し、そこからどうやって減塩しましょう、体重を減らしましょうと説明しても動く(実践する)わけではないので。食事をするときに、おいしくて、できれば自分で安く簡単に作れる方法を、SNSを使ってそんな方法があるということを伝えられれば。実践すればその結果体重も減るし、減塩もできる。手作りをもう少し推進されると結果としてついてくるかなと思います。

座長そうですね。重点ターゲットとしております、この若い世代と働き盛りの世代についてはコンビニなどをかなり利用されていると思います。

コンビニでの食の選択の仕方とか、お弁当にプラスアルファでどういったものを食べたらいいとか、パンを食べては駄目とは言いませんが、そこに何を一緒に食べたらよいかとか、そういったアドバイスを、デジタルツールを使ってしていけたら、それは重要な項目の一つかなというのも、今、構成員の話聞きまして思いました。

西村構成員今、もう皆さんがおっしゃっていることその通りだなというふうに思っています。少し思ったのが、病院で栄養指導が必要になった働き世代の方というと、独身時代に、朝早くから夜遅くまで働いて乱れた食生活を送ってしまい、そして結婚されて、何となく食生活は豊かになったけれども、やっぱり生活習慣病なので、若い時の乱れた食生活っていうのが引き金になって、5年10年後に受診をして病気が発見されるというような方がすごく多いかなというふうに思っています。そういう独身で、朝も早く、夜遅くまで働いているサラリーマンや夜勤の3交代があったりする方々こそ、やはりこういういろいろな北九州市の取り組みを知ってもらって、自分の中でちょっと考えたいな、というふうに思ってもらうことが大事なので、でもそういう方々にこういう情報ってなかなか行き渡ることが難しいので、せっかくこんないろいろなことをしているのでどんなふうに伝えたらいいだろうというのを、今、思っていました。

座長ありがとうございます。これだけの事業をしているので、どう伝えたらということですね。この情報時代に、どういったふうにして伝えていけばいいのか、というのが一番難しいところです。

子どもたちには、大人たちが食育をしていきます。高齢者については、自分の健康維持のために、食が大事ということで取り組んでくださいます。この若い世代、自立した若い世代に、SNS等を通して、いかに市の取り組みをわかしてもらおうか。

どうしても薬とかは即効性があるのですけれど、食べ物は長いスパンをかけて身体を悪くするかまたは身体を良くしていくかだと思っておりますので、そこを大事だというのをいかに伝えるかというのが、難しいところではあります。

安木構成員健康診断は、会社勤めの方は会社から行くように言われているので、その結果表の中に、そういうアプリに繋がる資料を入れ込むということができたらいいのではないのかなと個人的に思います。数値が悪くなっていると「私は、食事気をつけとかなないといけない」と自分が思うので、何をどう気をつけたらいいかが分かるような資料を通じて、そこからこの数値下げるためにこういうふうに変えていこうとか、意識をすることができれば。

座長ありがとうございます。

問診票の項目に「栄養指導を受ける機会があれば受けますか」という項目があるのですが、若い世代ではどうしてもそこは「はい」とならないのが現実のようです。

安木構成員行くというのは難しいので、それが自分の好きな時間でできるとなると、そちらの方が手軽にできるので、手を出しやすいかなと思います。

座長そこは検討していきます。あと、病院の健康管理センターなどといったところと連携して進めていけたらなと思います。

原田構成員参加型の学習のところで、子ども料理王選手権というのがあるのですが、今はコロナでやってないと思うのですが、10年以上関わりました。

1組5人で料理を、レシピから全部作るのですが、大体30から40組の申し込みがあるのですね。そうすると200人以上が料理に関わっていて、またその料理がそのままお店にも出せるよねっというように本当にプロ顔負けのものをみんな作ってきて。毎年、西港の青果市場で作って料理コンクールをやっていましたけれど、すごいなと思っていたのですよ。

だから、それぐらいちゃんと「こういうことやるよ」と広報すれば、関心を持っている子はいっぱいいるのだというのは僕も思っています。

それと、北九州から離れた人が必ず言うのは、北九州の食材はすごくおいしいよね。出るまで気がつかない、当たり前だと思っている。

それともう一つ、北九州の郷土料理。北九州の郷土料理を知っている人が何人ぐらいいるのか。僕はいろいろアンケートなどをとりましたが、大体小倉のぬかみそ炊きぐらいしか上がってこない。でもぬかみそ炊きって本当を言うと北九州の郷土料理ではないのですね、小倉の郷土料理であり、八幡のものは全然知らない。結構上がってくる料理はサザエの炊き込みご飯とかが多く上がってくるのですが、いろんな方に聞いてもまず知らないのですよ、郷土料理を。知らないのはもったいないよねっというような感覚です。啓発資材に載せるのだったら、もうちょっと色々な世代の方にそういう郷土料理って、こんなのがあるのだよっというように出せたらいいなというふうにするのですけど。

座長確かにぬか炊きはすぐ出てくるのですが、それ以外は出てこないですね。原田構成員がおっしゃるように、北九州市は食材が本当に豊富ですけども、その食材を使って、郷土料理もそれぞれの地域で作っていますが、なかなか広がっていないと思います。ぬか炊きは、もう有名なものですけども、それ以外の郷土料理もたくさんあるというのは聞いております。

若松漁協の方とかも、その地区その地区で食文化があって、いろいろな郷土料理を作っているというのを伺っていますし、また小倉南区に行きますと、タケノコに限らず、農産物が豊富ですので、それでいろいろと作っておられます。そこをもっと広げていくということに関して、何かご意見ないでしょうか。

黒田構成員 保育園の場合は、給食は市の栄養士さんが作られているので、そこで考えていただければ、子どもにも周知できると思いますし、調理士の研修で浸透して働きかけができます。あと、ちょっと思ったのは、保育所もなんですけど、学校とか献立表を保護者に渡していると思うので、二次元コードを載せれば、保護者の方たちも時間がある時にはそれで読み込んでみようかなとか見てみようかなと思う人も多いのではないかなと。

幼稚園、保育所、学校でそれをしていけば、周知できて広報効果があるのではないかなと思いました。毎月配りますので。

西村構成員【資料2-4】の「食と健康ステーション」の、二次元コードの話なのですが、馬場構成員も、若い方がこれを果たして読み込むのかということそこは不安だ、という報告をされていましたが、この健康づくりに関する2分程度の動画を、タクシーの中(後部座席モニター)とか、市民センターとかスーパーとかコードを読み込まなくても、待合室とかの場面で、それを定期的に流したりすると、わざわざコードを読み込むことが面倒な方にも何気に視覚的に入るので、この2分動画っていうのはそういうふうにもされてもいいかなというふうに思いました。

座長確かにそうですね。二次元コードをかざすことすら面倒だと思われる方々には、視覚的に定期的に流れてきたら、待ち時間等とかですっと見るっていうのもあるので、少し興味を持っていただけるかもしれません。検討いただければと思います。

座長黒田構成員がおっしゃった献立表について。教育委員会ではどうでしょうか。

前田指導主事教育委員会の学校保健課です。

今年度から、献立表はデジタル化になりまして、紙の配布を取り止めました。ただ掲載することは可能なかなとは思っていますので、また、検討させていただきます。

座長子ども家庭局保育所給食の方はどうですか。デジタル化でしょうか。

河崎課長保育所の方では各園に献立を取りに来ていただくことになっています。二次元コードを取り入れるというのは可能だと思います。

座長ありがとうございます。保護者の皆様は、もうスマホは全員お持ちの上、ということなのでしょうか。

穴井構成員思いつきですが、【資料2-4-2】のところで話題に出っていますが、なかなか皆さん時間がない中で二次元コードを読まないのではないかなという話があったので。

確かに意識高い人しか見ないのではないかなと思ったので、コンテンツの見せ方の工夫、アイデア次第かなと思います。少し前で言うと、NHKの「ためしてガッテン」とか、「明日が変わるトリセツショー」みたいな、ちょっとライフハック的な「これは知らなかった」みたいなことや、キャッチコピー次第かなと思うのですが、そういう面白いきっかけや問いかけみたいなことを仕掛けてあげるといいのかなっていうこと。

もう一つ別の話で、例えば大学などの朝食で、マラソンのエイドステーションみたいな感じで、朝、皆さんが入ってくるところで、例えばおにぎり1個と紙コップに味噌汁一杯を渡してもらうとか。無

料かどうかはわからないけど一応決めて、何か体験してもらった方がいい。

二次元コードなどで見るより、朝ご飯食べると「こんなに変わるんだ」みたいなことを体験する。定期的のできるのであれば、アンケートをとってみたり。朝ごはんを食べる体験を若い人にしてもらおうということができたら、予算とか、誰が朝食の準備するのか、みたいところは当然あると思うのですが、やはり「リアル体験」も必要。エイドステーションみたいな感じだと、時間がかからないので座ってとかでなくて、飲食してもらうのもいいのかな。何かそういう仕掛けをする。あとは時短。

あと、やはり若い人たちは自分のメリットがないと動かない気がするので、最初にお話が出た、「カッコいい」みたいなこととか「美容」みたいなところに興味があるかなと思うので、ヘルシーはカッコいいとか、おにぎりとかみそ汁は日本のファストフードだと思うので、そういうファストフードを食べるのは、カッコいいっていうふうな見せ方をするような情報発信ができたらいいのかな。

座長ありがとうございます。大学もそうですが、働き盛りの世代。

北九州市も大企業がいっぱいありますので、そこに、少し本市と連携してやっていけるといいのですが、まずは朝食の摂取の重要性というのをまだわかっていただけてはいない、朝食の摂取が将来肥満と結びついているということも知らない世代だと思いますので、その辺も含めてわかりやすく教えていき、そしてそういうツールができて、提供していけたらというのがあります。

まず市としてどこまで取り組めるか、若い世代の朝食摂取を上げていきたいという目標ありますので、検討させていただきたいと思います。

他にございませんでしょうか。

中尾構成員若い世代に関して、まず、コンビニにこの2分設置動画を置いてみるのはどうかと。

予算的なものがあるかとも思いますけど、コンビニに「もう一品野菜を」みたいなことが書いてあったら、手に取って野菜を買うかもしれないし、そうしたらコンビニの方も消費が上がって、win win じゃないかなというふうに思いました。できたらいいなと思います。

それと、あまり北九州市の郷土料理が普及してないというところで、学校給食では他県の郷土料理や他国の料理とかを、教室に配っているイラスト献立で紹介することがあるのですが、北九州の郷土料理をそんなにたくさん載せていないなと思うので、何か給食でアピールしていけたらいいなと思います。もっと、地元の食の大事さを給食でアピールできたら。こんなにたくさん関わる人がいて、ぬかみそ炊きしか思いつかないというのもちょっと寂しいので、私たちが郷土料理をもっと探して、給食で出していけたらいいなと思いました。

座長北九州市といえどどうしてもぬか炊きが出てきてしまうので、ぬか炊き以外も給食でアピールをしていただければありがたいです。

あと、コンビニに2分動画を置くのは、そこにモニターがあれば見るっていうのはあるかもしれないですけど、やっぱりコンビニなど大手企業との連携を本市として少しでも力を入れることが出来たらと思いますので、そのところもご検討いただければありがたいです。

原田構成員郷土料理の件なのですが、10何年か前に「地元いちばん」や地産地消推進課(=当時)で冊子を作っています。

下元課長農林課でございます。

今おっしゃった冊子は当課にあると思います。確か、食生活改善推進員の皆さんにご協力いただいて作ったのではなかったかなと記憶があります。結構分厚い冊子です。

座長西南女学院大学も関わったのではないかと思います。食生活改善推進の方と市の産業経済局の方々と、いろんな地域に行って一緒に作って写真を撮って、公表されました。多分探せばあるかもしれません。よろしければ、事務局でも探していただければと思います。

他にございませんでしょうか。いろいろご意見ありがとうございました。

それでは次の議題に入らせていただきたいと思います。

議題3の、次期北九州食育推進計画スローガン(案)について、事務局の説明をお願いいたします。

議題② 次期北九州市食育推進計画 スローガン(案)について

事務局 (資料を用いて説明)

座長次期北九州市の食育推進計画のスローガンにつきまして、事前に構成員よりご提出をいただいております。ありがとうございます。それと事務局から、五つのご提案をいただいております。次期計画の方向性と、具体的な施策を今話して参りましたが、その事業を見ていただいた上で、スローガンについて設定の視点、何をアピールしていったらいいか、盛り込みたいキーワードありましたら、第2回の資料にあります、理念や市民の目指す姿などを参考に、ご意見をいただきたいと思います。思っております。

本日、スローガンは決定いたしませんけれども、スローガンを事務局で検討していきますが、皆様から組み込みたいこと、目指したいことなどご提案いただき、将来を見据えて、食は豊かだということ、人の心を動かすこともできるようなメッセージ性を含めたスローガンを考えていきたいと思っております。

もう一度申しますが、ターゲットはすべての世代ですが、若い世代・働き盛り世代を中心に重点ターゲットとして取り組みたいと思っておりますので、食育に関心を持ってもらえるように、健康や食べることに関心を持ってもらえるように、こういった言葉を組み込み入れ込んだらいいよとかないでしょうか。キーワードでも構いません。

アピールしていきたい言葉、そういったのを教えていただければありがたい。

山下構成員前回の懇話会の時に、自分の中でひらめいたのが、「食は命」というキーワード、「食べることの楽しさ」そして「食べることの大切さを知ろう」みたいな、そういったものが表現できたらいいなというふうに感じました。ただお腹を満たすだけではなくて、食べることで体を作っていくところを、ぜひ全世代に伝えていければいいかなというふうに感じました。

馬場構成員この案で、多くの方が出されているように、「未来」というワードは、やはり入れた方がいいなと思っております。参考1の目標、健康寿命の延伸、持続可能な食というのがあるので、自分の健康、環境、一つでも自分の健康にとって、食が繋がっていくという意味で「未来」というのがいいのではないかなと思います。

座長ありがとうございます。

確かに未来は大事で、自分の体は自分で守る、食を介して、ということで、含めていきたいです。北九州市の食の豊かさ、温かさを含んだような内容とかもありますでしょうか。

未来、あと食は命、食べることの重要性、食べること、体をつくるということ、などは含めて提案させていただきたいと思います。

あと、「レポリーション」というのは、黒田構成員がおっしゃっていますけれども、今のこのSNS世代の若者たち・働き盛りの世代の方々には心をつかむような横文字でもいいのですが、あれば、お伝えいただければ。必ず使うかはわかりませんが。

いただきました案を参考に、事務局で検討いただければと思っております。

本日の懇話会の終了後も意見書で、スローガンに関しても、キーワードとかをご提案いただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、残りの時間で、これまで各団体様の食育の取り組みについてご紹介いただいておりますけれども、調理師連合会より、機関誌の紹介の資料をご提供いただきました。ご覧いただければと思います。

他の団体様においても、実施されている食育の取り組み等ございましたらご紹介いただければと思うのですが、ございませんでしょうか。

藤崎構成員北九州歯科医師会では、食育に関して、1年に1回、食育推進講演会というのを11月から12月に開催しています。昨年度はアレルギーについて、北九州市で岡部先生という、アレルギー専門の先生に講演をお願いしましたところ、100人くらい集まっていただきました。

対象者は栄養士さん、保育士さんだったり、幼稚園の先生だったり、歯科医師含めて。

今年は、まだ講師も決まってないのですが、ここで「みらい塾」という取り組みを聞きまして、地産地消とか、郷土料理とかについて、みらい塾の先生に1人入っていただいたり、口腔健康管理について、歯科医師会から1人面白いお話をできる方の候補をいただいたりしておりますので、2人くらい組み合わせて、講演会をしたいなと思っております。その節はまたご案内します。

座長ありがとうございます。

田中構成員【資料2-5】の食への理解と感謝の意識の醸成に関する体験型取組みのところで、動物の命への理解だけじゃなくて動植物の方がいいのではないかなというふうな気がしたのです。

座長ありがとうございます。植物からも命をいただいておりますので。検討したいと思います。それでは、第3回の北九州市食育推進懇話会はこれで終了いたします。事務局から連絡事項等ありましたらよろしく願いいたします。

事務局本日はたくさんのご意見ありがとうございました。事務局で整理して、検討させていただきたいと思っております。